

たんけんたい ふるさと米子 探検隊

第23号 米子の方言“米子弁”的の巻

だんだん♪



米子市立図書館 編刊／2021.3 TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637 <http://www.yonago-toshokan.jp>

暮らしのことばを知ろう！調べよう！

みなさんは、米子に伝わる“方言”を知っていますか？方言とは、それぞれの地方だけで使われることばのことですが、地域によりことば（語い）に差があるだけでなく、発音の仕方やアクセント、文法（ことばのきまり）などにもちがいがみられ、それらをふくめた地域のことばを“方言”といいます。現在は、テレビの普及や交通手段の発達などにより、ことばにおいても、地域性はますます希薄になってきています。よって、方言も昔に比べて使われなくなつてきました。

今回の探検隊では、方言のことば（語い）について学びます。私たちの暮らす米子の方言“米子弁”を通して、日本語の豊かさについて考えてみませんか。

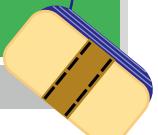
さんこうしりょう 探検隊の参考資料

図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。

- ・『新修米子市史 5巻 民俗編』 米子市史編さん協議会//編 2000年 Y224/Y19/5D
- ・『鳥取県方言辞典』 森下喜一//編 1999年 Y88/M4
- ・『日本のことばシリーズ 31 鳥取県のことば』 平山輝男//著 1998年 Y88/H5
- ・『鳥取の方言をたずねて』 森下喜一//著 1999年 Y88/M4-2
- ・『米子弁講座』 岡本清//著 2002年 Y88/04
- ・『米子ことば-訛りの分析-』 田総武光//著 1990年 Y88/T3
- ・『よなご弁』 松田勝三//著 1988年 Y94
- ・『中国・四国の方言一調べてみよう暮らしのことば』 ゆまに書房 2003年 Y88/I6
- ・『滅びゆく日本の方言』 佐藤亮一//著 2015年 818/サト
- ・『みんなが知りたい！ 「いろんな方言」がわかる本』 メイツ出版 2006年 818/ミン (児童)
- ・『ポプラディア情報館 方言』 ポプラ社 818/カ (児童)

ほか

(資料名の後の数字と記号は「請求記号」です(ラベルの番号)。資料がどこに置い
てあるかを示しています。)



方言について知ろう



◎方言はなぜ生まれたのでしょうか

方言は話すことばです。祖先から受けつぎ自然に習い覚えていくもので、文字にできないため時代とともに少しずつに変化していきます。みなさんと、おじいさん、おばあさんの年齢の差によることばのちがいはもちろん、明治時代と現代のことばでもちがいがあるように、時代がたつにつれ、大きなちがいがあらわれます。また昔は地方の人同士の交流もなく、地域ごとでことばの差が生まれていき、各地で方言が出来たと考えられています。さらに北から南へと細長い形をしている日本の地形や気候、風土のちがいも相まって、その土地独特の方言が存在しています。

◎方言の歴史

方言がいつごろからあるのか、はっきりとはわかつていません。しかし、1000年以上前にはすでに全国にさまざまな方言があったと考えられています。奈良時代にできた日本で一番古い歌集『万葉集』の中には、東日本の方言をふくんだ和歌「東歌」などがのっています。当時は奈良が日本の都だったため、すでに西日本と東日本の方言がことなっており、そのことに興味を持った都の人々が『万葉集』に東歌をのせたそうです。また江戸時代中期には、越谷吾山という俳人が書いた『物類称呼』という方言の辞典があり、全国の方言が約4000語も記されています。そこには今も使われていることばがたくさんふくまれています。そして時代を経て、江戸時代には大名の国がえ、明治時代以降には開拓民の移住など、各地に移り住んだ人々によっても方言は地方に伝えられていきました。



◎共通語と方言

他の地方の人と、それぞれの方言で話しても通じないことがあります。また、同じことばでも使い方や意味がまったく違うこともあります。そのため、標準とすべき正しい日本語という意味で、明治時代に「標準語」が全国に広められました。全国のどこでもだれでも分かり合えることが出来るようにしたのです。



また標準語に似たことばに「共通語」があります。これらは同じ意味で使われることがありますが、標準語は“書きことば”としての正しい日本語で、共通語は他の地方の人同士が話をするときに使う“話すことば”です。現代では東京のことばが共通語として使われており、テレビ等の普及により、全国にあつという間に広まりました。ただ、その一方で、同じ地域に住む人々の間では、素直に気持ちを表しやすく理解しやすい方言も大切にされていました。現代では、お年寄りも若い世代もみな、広まつていった共通語と昔から伝わる方言を使い分けて生活をしています。

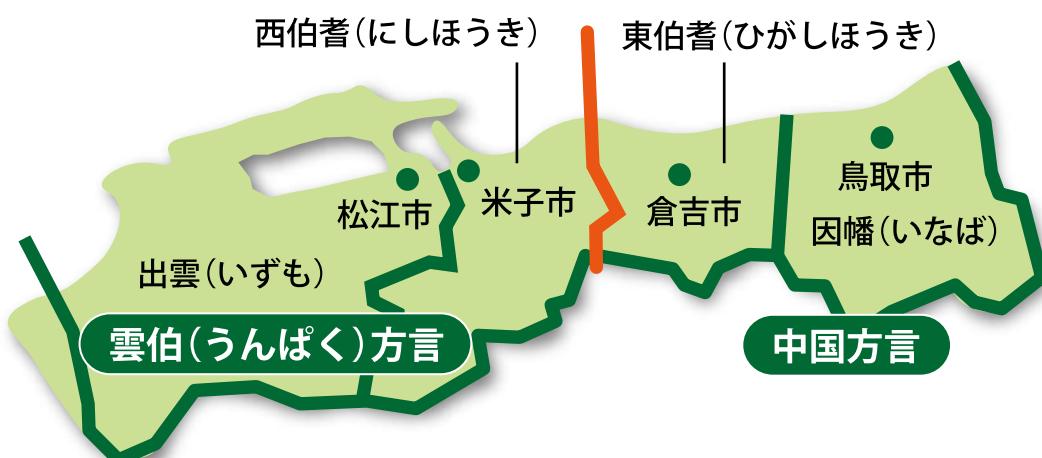
米子に伝わることば、どのくらい知ってる？

◎鳥取県の方言・米子の方言

日本語の方言は、方言のちがいによってグループ分けをされています。いろいろな研究者がアクセントや文法の特徴など、さまざまな案で区分けをしており、そのまとめを「方言区画」といいます。

鳥取県の方言は東部（因幡）方言、中部（東伯耆）方言、西部（西伯耆）方言に分けられます。米子市は西部（西伯耆）方言になりますが、広く中国地方でみると、他の地方は「中国方言」と呼ばれている一方、島根県の出雲地区から西伯耆地区にかけては「雲伯方言」と呼ばれています。中国地方の方言の中で雲伯方言だけが別の区画である理由の一つとして、東北地方に似た「ズーズー弁※」の発音の存在があるようです。またアクセントは、おとなりの近畿地方には似ず、東京地方のアクセントが使われます。

※ズーズー弁…「シ」と「ス」、「ジ」と「ズ」、「チ」と「ツ」の区別のない方言。「一つ仮名弁」とも言います。



時代、人、場所など、さまざまな条件で、ことばは常に変化し続けます。方言についても、時代とともに消えゆく方言がある一方で、新しい方言も誕生しています。

私たちの暮らす米子では、どのような方言があるのでしょうか。おもに昭和の時代に記録された資料や、米子弁を使った語りの活動をされている方へのインタビューで、くわしくみていきましょう。

◎集めてみたよ！米子弁

(参考：『鳥取県方言辞典』森下喜一//編 協力：竹本厚子さん)

	米子弁	意味	使い方・その他
名詞	えしこ	いい具合。	「この戸の動きをえしこにしてごしない。」
	かたけ	半日。	「畑の仕事がかたけですんだ。」
	がんじょ	勤勉。努力。	「ようがんじょしなったなあ。」
	けんびき	肩こり。疲労から来る風邪。	 <p>けんびきがでたわ。</p>
	ごず	はぜ。	
	ごめた	ひとまとめ。	「ごめたでもらう。」
動詞	てご	手伝い。手助け。	「てごしてごしない。」
	そもそも	運ぶ。持ち上げる。	「ちょっともそんできてごしない。」
	くぐる	焦げる。	「煮物がくぐる。」

	米子弁	意味	使い方・その他
動詞	さばる	さわる。つかまる。	「私の手にさばって歩く。」
	しじる	煮る。さっと焼く。	「その肉をしじって食べる。」
	つぐまる	かがむ。座る。	「畠でつぐまって草かいをしていた。」
	まくれる	転ぶ。転倒する。	「気をつけんとまくれーぞ。」
	めぐ	こわす。破る。	「それ、めいだらいけんで。」
その他いろいろ	ほせ	細い。小さい。幼い。	「竹のほせの持ってこい。」
	えらい	ひどく。苦しい。つらい。	「からだがえらい。」
	えっと	多く。たくさん。	「えっと食べたなあ。」
	がいな・がいに	大きな。たくさん。大変に。	「がいな家だ。」
	べった一べった一	たびたび。時々。	「べった一べった一来てごしない。」
	ちょんぼし	少し。	「ちょんぼしもらう。」
	きょーてー	こわい。恐ろしい。	「この話はきょーてわ。」
	じゃじやくちゃ	めちゃくちゃ。	「机の上がじゃじゃくちゃだ。」
	どげしゃもない	どうしようもない。	「もうどげしゃもないわ。」
	だらズ	ばか。	「だらズだなあ。」
	おちらと	ゆっくりと。落ち着いて。	「おちらとして行かいや。」
	いけん	ダメだ。よくない。	「そげなことしたらいけん。」
あいさつ	ばんじまして	夕方のあいさつ	
	だんだん	ありがとう。	
語尾	…しな	…のあとに。	「食べしなに寝一と牛になーで。」
	…やち	ら。※人名につけ複数を表す。	田中やち（田中ら）。
	…しこだ	…だそうです。	「明日は休みだしこだ。」
	…ごせ・ごしない	…してください。	「それ作ってごしない。」
	…けん	…から。	「今から行くけん。」
	…いや	…しましょう。	「食べらいや。」
	…しない	…しなさい。	「勉強しない。」

ひとつでも知っている米子弁がありましたか？今回調べたものは、もちろん、ほんの一部です。現在ではすでに使われていない米子弁もあると思います。調べてみると、自分では共通語だと思っていたことばが、実は方言だったと知ることもあります。これを「気づかない方言」というそうです。また、地域にかぎって用いられることばではないものも、たくさんあります。たとえば「米子がいな祭」の「がいな」は、江戸時代初期の歌謡集『落葉集』の歌の中に“がいに冷たい今朝の雪”ということばがあり、古くからこのことばが使われていたことがわかります。また東北各県や関東地方、東海地方、四国地方などでも広く用いられているようで、地域特有の方言を探すほうが、実は難しいようですね。なお動詞の「もそぶ」は、現在知られている範囲では雲伯方言にしかないことばです。方言辞書などで調べてみると、他の地域との関係や歴史もわかるので、気になる米子弁をぜひ調べてみましょう。

米子弁を伝える語り手の方にインタビュー！

おじいちゃんやおばあちゃんなど、地域で米子弁を使っている人たちとふれあうと、共通語だけでは言い表すことのできない、方言ならではの豊かさや温かさが伝わってきます。そこで、米子の方言で昔話を語る活動をされている方に米子市立図書館のキャラクター「よなぽん」がインタビューをしたよ！



竹本厚子さん

米子市で生まれ育ち、地元の民話を語る「ほうき民話の会」のメンバーとして活動されています。「米子弁が米子一大好き！」とおしゃる竹本さんは、保育園や小学校に出向き、子どもたちに米子弁で民話を語っておられます。



竹本さん、今日は米子弁についていろいろ聞かせてください。
よろしくお願いします！

よなぽん、ばんじまして～（夕方のあいさつ）。今日は米子弁のことを聞いてごしなーしこで、だんだんだんだんだん。私がほせとき、おじいさんやおばあさんに囲まれて育つって、古い米子弁もよう聞ーとーだがんなあ。そーで、ずっと米子におーけん、米子弁が大好きなだが。民話も大好きで、そーを子どもやちに米子弁で伝えていきたて話ししとーだがん。



竹本さん



長年活動されておられますか？
おはなし会で米子弁を話されるとき、子どもたちはどんな風に聞いてくれますか？

方言は、ぬくもりや、したしみが伝わーけん、その土地に伝わー話は土地のことばで話すのが一番だけんなあ。米子におーなら、米子弁使わんとなあ（＾＾）。

私がよーすーお話で「あわてもんの大山参り」は、おじいさんがひざの上に私をのしてよう話してごしなっただがん。

子どもやちは米子弁がわからんでも、話はわかーし、よう聞いてござで～。お話の中に出でくー昔の道具（枕や弁当箱）を見せて話したりすーと、昔の暮らしあり分かって、がいに興味持つてござだがん。お年よりの施設でも話しすーと、古い米子弁をなつかしがって、よろこんでござしなあよ。



よなぽんも、米子弁が好きになってきたで～（#^.^#）竹本さんの米子弁の民話、もっと聞きたいなあ～

あら、なんぼでも話しすーで♪おはなし会もあーし、音源もあーけん、よかつたら聞いてみないや。（CD『昔話ふるさとへの旅 鳥取』キングレコード）アクセントや発音も特ちょうがあーけんなあ。

米子の民話も図書館に資料があーけん、ぜひ読んでござしないよ（『米子の民話散歩』川上迪彦//著他）。みんなも、生まれ育った米子のことばをだいじにしていかいや（*^-^*）



方言は、地域の暮らしと深い関係にあるんだね。地域のことばを大切にすることは、日本語を大切にすることにもつながるね。米子の文化の貴重な財産として、残していきたいね！ぜひみなさんにもおはなし会などで話すことばである方言を楽しんでほしいな。竹本さん、ありがとうございました！だんだん（^~^）

みつけた！まちの中の “米子弁”

町でみつけた米子弁を紹介します。地元の人たちの思いで米子弁が暮らしの中にたくさん使われていることがわかります。

米子がいな祭 「がいな」（大きな）

1974年（昭和49年）から始まった「米子がいな祭」は、米子の郷土芸能として毎年夏に盛大に開催されています。

はじめは「米子まつり」という名称でしたが、「がいな米子まつりにしよう」というキャッチフレーズを使い、正式に「米子がいな祭」となりました。

『新修米子市史第11巻資料編』米子市史編さん協議会//編より



がいながいなは
ええがいな～
米子言葉がええがいな～
ところなまりが～
ええがいな～
(米子がいな音頭)



米子の夏の風物詩「がいな万灯」

だんだんバス 「だんだん」（ありがとう。心から感謝している気持ちを表します。）

2002年（平成14年）4月から、JR米子駅を発着し市内中心部の主要施設を循環するコミュニティバスが運行を開始しました。車いすで乗り降りもしやすいノンステップバスで、「だんだん」という名前の通り、思いやりやふれあいの気持ちがこめられています。

『米子市10周年史』米子市//編より



色もあざやかで
親しみやすいね♪



だらづ えふえむ DARAZ FM 「だらず」



DARAZ FM で話す「だらず」様

2010年（平成22年）に開局したコミュニティ放送局です。本来、「だらず」は「馬鹿者」という意味ですが、このラジオ局を開設するにあたり、「DARAZ」は「なんでも真っ先に飛びついで突拍子もないことをしてしまうがどこか憎めない人・こと・もの」として捉え、DARAZで米子を活気あるまちに盛り上げたいという気持ちが込められているそうです。



JR米子駅構内0番乗り場の階段と、ホームに設置されているゲゲゲの鬼太郎の像に、方言を使ったメッセージが書いてありました。

ありがとう、だんだん、よう来てごしなった (ありがとうよく来てくれたね)



©水木プロ

米子駅にあるんだね。
よなほんも今度さがしてみようっと (^_^)



妖怪やちの待つ おもしょげな世界を がいに楽しんで ごしない (ようかいたちのまつ おもしろそうな世界を たくさん楽しんでください)



©水木プロ



旅行、通勤や通学などでたくさんの人が乗り降りする駅で、大人気のキャラクター“鬼太郎”が米子弁で歓迎しているね！

みなさんも、町や学校などで米子弁をさがしてみよう♪

米子弁を調べてみよう！

いつも何気なく使っていることばでも、自分でも気づかないうちに地域の特ちょうを表した方言を見たり、使ったりしているんですね。今回の探検隊で紹介した米子弁は、まだほんの一部です。気になることばを探して、自分で調べてみましょう。

◎調べることばを探してみよう

今回の探検隊で取り上げていない米子弁を探してみましょう。おうちの人聞いてみてもいいですね。

◎調べてみよう

調べてみたいことばを決めたら、いろいろな人に聞いてみましょう（一人だけでなく、おじいさんやおばあさん、家族、若い人など）。また、どんな時に使うか、じっさいに話してもらってみましょう。他にもインターネットで検索したり、辞書を使って調べてみましょう。

☆鳥取県きつぎらんど「鳥取県の方言」
<https://www.pref.tottori.lg.jp/28531.htm>

☆日本海新聞「伝えたい方言」
 2011年から2014年まで連載されました。方言の意味を一つずつ紹介しています。
 米子市立図書館では、新聞の閲覧や、インターネットの日本海新聞記事検索サービスで見ることができます。

☆インターネットで調べるコツ
 検索サイトで、調べたいことばを入力し、スペースを空けてさらに調べたい事柄を入力すると、より知りたい情報がでてくるよ。（例えば…「がいな 方言」「だんだん 米子」など）また、方言にかんするいろいろなホームページもあるので、検索してみよう！



◎まとめて、米子弁資料集をつくろう

調べた米子弁を、3・4ページを参考にまとめてみよう！ことばの意味だけではなく、どのように使うのか、例文もあるとわかりやすいね。

◎自分たちのことばは新しい？米子弁を使って話してみよう！

自分たちがふだん話していることばは新しいことばでしょうか？話してみて、方言や共通語が混ざっていたり、ことばを省略したりしたものもあるでしょう。自分たちの使正在ことばをぜひ米子弁で話してみてください。地元に伝わる昔話を、米子弁にして語つてみるのもいいですね。

方言には、どうしても文字では表現できないことばづかいがあります。方言の大きな特ちょうとしてあげられる発音やアクセントを、話をしてくださった方々の音をよく聞いてチャレンジしてみましょう！

生活と深いかかわりのある方言を調べることで、その地域について学ぶことにつながります。米子の方言“米子弁”的良さを再確認しよう！